

令和3年度第2回岡崎市国際化推進委員会議事録

- 1 日時
令和4年2月8日（火） 午前10時～午前11時30分
- 2 場所
市役所西庁舎701会議室
- 3 出席委員（敬称略）
委員長 川崎 直子
副委員長 伊東 浄江
委員 三浦 知美、井上 登永、川口 佐織、長尾 晴香、河口 苗子
- 4 欠席委員
なし
- 5 傍聴人
1名
- 6 事務局
社会文化部長 手嶋 俊明
多様性社会推進課 課長 三浦 健仁、副課長 石川 千乃、係長 竹谷 昌祐、
主事 鈴木 美菜子、主事 安藤 美咲、事務員 伊東 拓弥、主査 太田 義
男
- 7 議題
多文化共生に向けた本市の取組みについて
- 8 議事要旨
司会の多様性社会推進課長が開会を宣言。今回任期が改まり最初の会議であったため、社会文化部長の挨拶の後、全委員、事務局の自己紹介を行った。本委員会設置要綱第4条第2項の規定に基づき本会議が有効に成立している旨を報告。その後、委員長、副委員長の選任を行い、互選により委員長に川崎委員、副委員長に伊東委員が選出された。議長を務める川崎委員長により議題の審議が進められた。

議題 多文化共生に向けた本市の取組みについて

事務局 : 多文化共生に向けた本市の取組みについて説明。
委員長 : 委員の皆様から御意見・御質問はありますか。

<多文化共生に向けた本市の取組みについて>

A委員 : 多言語防災啓発動画は何分ぐらいの動画になっていますか。

事務局 : 動画は2種類作りしました。両方とも3分程度の動画になっています。

A委員 : 短くてとても良いと思います。チラシも作成したということなので、地域の役員会や総会等で紹介してもらおうと良いと思います。そうすれば地域での繋がりへと繋がっていくと思います。

事務局 : 今回作成した動画は3分程度ですが、以前のものは10分程度の長さで様々な要素が入っていました。動画が長いと外国人市民は見てくれないという当課の外国人スタッフの意見を取り入れ、テーマを明確にして短く仕上げました。動画の最初にインパクトのある映像を入れることによって、外国人市民に興味を持っていただけるように工夫しました。

A委員 : 総代等にチラシを送付すると良いかもしれません。災害時には地域との繋がりが重要となってくるので、多くの人に周知してもらおうと良いと思います。

事務局 : チラシにQRコードを載せて各言語に翻訳をして作成したので、外国人市民が集住している地域の総代や自治会長にまずは周知を図っていきたいです。

委員長 : この動画を今視聴することはできますか。

事務局 : はい。動画を流させていただきます。<動画視聴>

委員長 : とてもコンパクトにまとめられた良い動画なので、ぜひいろんな講座で紹介し、広めていってください。

E委員 : コミュニティ通訳員についてですが、先進的な取り組みだと思います。コミュニティ通訳員会議は、今年度、新型コロナウイルス感染防止のため書面開催となったと事務局から説明がありましたが、翻訳の依頼件数に何か変化がありましたか。また、総代・自治会長から地域の困りごとや相談等はありませんでしたか。

事務局 : 翻訳実績については、1月末時点で昨年度が210件、今年度が170件程度となっています。翻訳件数が減少したのは、新型コロナウイルスのため、町内でのイベント等が減ったからだと思います。今年度は、コミュニティ通訳員会議を書面で開催することとなり、2月の中旬に総代・自治会長に質問票を送付しました。防災やごみ出し、住宅関連の地域での困りごとや質問等を、送付した質問票に書いて提出していただいているところです。

回答を取りまとめて後日送付をする予定です。

E委員 : 町内でのイベント等が減り、翻訳件数は減っているということですが、おそらくコロナ禍での困りごともあると思うので、今後もフォローを続けてほしいと思います。

C委員 : 子ども向け日本語教室（ぴかぴか）の参加者の反応はどうですか。また、子ども向けの日本語教室は次年度も続けてほしいです。

事務局 : ぴかぴかのメインターゲットは年長から年少の児童です。NPO 法人トルシーダに委託をして事業を行っています。昨年度は、回を重ねるにつれ、参加者が減少する傾向にありましたが、今年度は減少せず順調に進んでいます。最終回で、参加者にアンケートを実施する予定です。また、次年度もこの事業を継続して行う予定です。

A委員 : ぴかぴかは全5回でどこまで子どもたちに日本語を身に付けてもらえるか工夫をしながらカリキュラムを組んでいます。家庭として孤立していたり、親が日本に馴染めていなかったり、本当に様々な人たちがいます。夏に開催した進路・教育座談会で、バイリンガルスタッフによる体験談を聞く中で、参加者の気持ちもほぐれてきて、心配に思っていること、こだわりを持っていること等支援者側からでは気づくことができない本音の部分を知ることができました。日本語力も子どもにより全く異なるので、プログラムの工夫は毎回必要になってきます。自国の文化や言葉に誇りを持って、今後生活していけるようになることを目指しています。

委員長 : ぴかぴかを継続していくにあたって、課題はありますか。

E委員 : 私は、ボランティアとしてぴかぴかに参加していますが、継続していくためには親子との信頼関係を築くことが大切だと思います。

A委員 : 本来ならば、保護者にぴかぴかでの子どもたちの様子を実際に見ていただきながら意見を直接いただくことが好ましいですが、今回はコロナ禍なので、会場の様子をカメラで撮影し、動画を配信し、保護者に見ていただいています。

事務局 : 今月もあと2回開催予定です。親子との繋がりや信頼関係を築くことが重要だと思います。今後、参加者にとって自然と足を運びたくなるようなクラスになるように努めたいと思います。

D委員 : 日本語ボランティア養成講座についてですが、この講座を受講した方たちは市内のどこで活躍してもらうことを想定していますか。

事務局 : 当課の分室りぶら国際交流センター（LICC）が図書館交流プラザりぶらにあります。LICC 執務室の隣の研修室で週に3回、木曜日、土曜日、日曜日にボランティアによる日本語教室を行っています。その日本語教室で活動してもらうことを想定しています。

D委員 : ある程度の日本語を話せるようになった方には、その日本語教室で良いと思います。多文化共生推進基本計画の中に記載はありませんが、大人のた

めの日本語初期指導教室はどうなっていますか。

事務局 : 岡崎市では日本語を教えるボランティア団体があります。その団体による日本語教室は、日本語をある程度話すことができる外国人の方にも教えませんが、また、日本語をほとんど話すことができないが、日本語教室の情報をもとに来た外国人の方にも教えています。LICCの日本語教室では、参加者の日本語レベルは様々ですが、マンツーマンで教えたり、グループで教えたり、その人に合った教え方をしています。また、市はボランティア団体に補助金を支払っています。大人のための日本語初期指導については、今後の課題として検討していきたいと思います。

委員長 : ぴかぴかボランティア養成講座についてですが、受講者 20 名は、ぴかぴかで活動していますか。

A委員 : 参加していただいています。できれば今後も安定的にスタッフとして関わっていただけると嬉しいです。

委員長 : ボランティアを安定した人数で今後も確保していくことが大事だと思います。日本語ボランティア養成講座は今後も継続して開催していく予定ですか。

事務局 : 今後も継続して開催していく予定です。養成講座に参加した方にはぴかぴかのような講座で活躍してもらおうと思っています。講座の中で伝えることができるのは、外国人市民数や外国人市民を対応する際の心構え、子どもに日本語を教える際の注意点などで、実際のところは実地で学んでもらうしかないため、試行錯誤して行っています。

委員長 : 私の住む町でも子どものための日本語初期指導のクラスがあり、そこで活動してもらう人のための日本語ボランティア養成講座があります。私の町の課題は、養成講座を受講した人に、継続してボランティアとして参加してもらうことができていないことです。なので自治体が毎年継続してこのような日本語ボランティア養成講座を開催することで安定的なボランティアの確保をお願いしたいです。

A委員 : F委員はゼロレベルの日本語学習者にボランティアの方が日本語を教える際にどのように日本語を教えると良いと思いますか。

F委員 : 学習者によって事情は様々ですが、継続して学んでもらうためには家族の理解も必要だと思います。少しずつやっていくことが大切だと思います。また、日本語母語話者が非日本語母語話者に日本語を教える際に、日本語母語話者が日本語をよく理解している必要があると思います。

委員長 : 昨年、私の町の日本語ボランティア養成講座に携わったことがあります。その中で日本語教育文法を教えました。私は日本語教師なので、自分たちが小中学校で学んだ国語とどのように違うのかを説明しました。受講者は日本語の文法の難しさに驚き、日本語の文法を子どもに教えることは難しいという反応を見せました。子どもには日本語の文法を教える必要はあり

ませんが、指導者や支援者になる方には、日本語教育の文法と国語の文法は違うということをお聞きしたいです。客観的に日本語を見つめる機会を設けることが大切だと思います。

F委員 : 町内会のための翻訳支援について、ネパール語もありますが、職員やボランティアが行っているのですか。

事務局 : 町内会のための翻訳支援業務については、民間企業に委託をしています。

F委員 : 市内の国籍別外国人市民数に変化が見られれば、今後翻訳可能な言語が増える可能性もありますか。

事務局 : 翻訳可能言語数が増える可能性はあります。基本的には国籍別外国人市民数の人数に応じて翻訳可能な言語を決めています。以前、竜美ヶ丘住宅でネパール人住民が増えている、ネパール語の翻訳をお願いしたいという要望があったので、ネパール語も翻訳言語に加えました。

委員長 : ネパール人は昨年10月1日時点で246人在住しているようですが、在留資格としては何が多いですか。

A委員 : 技能実習や技術の在留資格で、勤務先としてはカレー屋さんが多いと思います。

委員長 : ワールドクッキングについてですが、ネパール料理の回の参加者数が多いようです。講師はプロの方をお願いしているのですか。

事務局 : 基本的には当課の職員の知人などで、在住市民の方で母国の家庭料理を作ることができる方をお願いをしています。

委員長 : 災害時通訳ボランティア養成講座についてですが、「外国語が話せる市民を対象に」とあります。具体的にどの程度外国語を話すことができることを条件として定めていますか。また、回を重ねるごとに参加者数が減っているようです。このボランティア養成講座は3回受講をすると、修了証明書のようなものが発行されるのでしょうか。

事務局 : 養成講座は全部で3回開催しました。第1回は新規にボランティアになりたいという方向けの講座で、第2回は既にボランティアに登録されている方のスキルアップのための講座、第3回は両方の方向けの講座です。ですから、人数のばらつきがあります。また、ボランティアについては、基本的には外国語を話すことができる方が望ましいですが、やさしい日本語での参加も可能です。講座を受講したら最終的に登録証をお渡ししています。もともと災害時通訳ボランティアは、災害多言語支援センターと連携して翻訳を避難所等の現地で行うことを想定していました。しかし、実際の避難所では、一般に社会福祉協議会のボランティアセンターから派遣されたボランティアさんたちと同じ指導系統で動いてもらう方が望ましいと考えられます。そのため、養成講座の参加者には、任意でボランティアセンターに登録してもらうことを呼びかけています。

委員長 : 災害が起きないことが一番良いですが、日頃から備えておくことはとても

良いと思います。

- E委員 : 私も災害時通訳ボランティアとして登録しています。社会福祉協議会と連携して動く準備ができていることは良いと思います。それに加えてやっていただきたいのは、災害時通訳ボランティアや災害多言語支援センターがあるということを自治体の皆さんにも知ってもらうことです。存在として知られていないとなかなか活用されないと思うからです。
- 委員長 : 先ほどの多言語防災啓発動画もそうですが、このような取り組みが岡崎市で行われているということを皆さんに知っていただけるように広報をすると良いと思います。

<まとめ>

- 委員長 : 参考資料3を見ると、就学前の外国人市民数が1,000人を超えていることが分かります。ぴかぴかを今年後は5回行っているということですが、今後もこの年代への支援に重きを置いて取り組んでいていただきたいと思います。それに加え、60歳代から90歳の外国人市民数を見てみると、こちらも1,000人ということなので、外国人市民の高齢化への支援も重要になってくると思います。今後、外国人市民の高齢化への支援についても焦点をあてて話し合っていけると良いと思います。
- 事務局 : 貴重なご意見ありがとうございました。これで令和3年度第2回国際化推進委員会を終了します。